

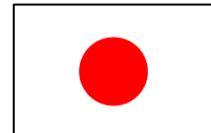


ASEANとどう向き合うか

防衛研究所安全保障戦略課程・国外現地研修ブリーフィング

2025年5月26日

ASEAN日本政府代表部大使 紀谷 昌彦



お伝えしたいこと

1. ASEANとは何か
2. ASEANと日本
3. ASEANとインド太平洋

ASEANとは何か

ASEAN各国と日本の比較

ASEANは、国の規模、体制、宗教、社会文化が異なる多様な国の集まり

人口：1億2454万人
GDP：42,311億ドル
GDP/人：33,973ドル
面積：38万km²



石破総理

【ミャンマー】
人口：5,481万人
GDP：594億ドル
GDP/人：1,096ドル
面積：68万km²
(日本の約1.8倍)
ワイン・ミン大統領(*)
(*2021年2月以降、
ミン・アウン・フラン国軍司令官が全権掌握。)



ウイン・ミン大統領(*)

【タイ】
人口：7,169万人
GDP：4,953億ドル
GDP/人：6,908ドル
面積：51万km²
(日本の約1.4倍)



ペートンターン首相

【マレーシア】
人口：3,394万人
GDP：4,064億ドル
GDP/人：11,972ドル
面積：33万km²
(九州を除いた日本)



アンワル・イブラヒム首相



ASEAN基本データ（2023年）

人口：約6.8億人（世界の約8%）
面積：約449万km²（世界の約3%）
GDP：約3.8兆ドル（世界第5位）
(出典：ASEAN Highlists 2024, ASEANstas)

【ラオス】
人口：753万人
GDP：157億ドル
GDP/人：2,088ドル
面積：24万km²
(本州とほぼ同じ)



トーンルン国家主席

【ベトナム】
人口：9,818万人
GDP：4,088億ドル
GDP/人：4,163ドル
面積：33万km²
(九州を除いた日本)



トーラム党書記長

【フィリピン】
人口：1億1555万人
GDP：4,042億ドル
GDP/人：3,498ドル
面積：30万km²
(日本の約80%)



マルコス大統領

【ブルネイ】
人口：45万人
GDP：166億ドル
GDP/人：31,152ドル
面積：5,770km²
(三重県とほぼ同じ)



ボルキア国王

【シンガポール】
人口：563万人
GDP：4,668億ドル
GDP/人：82,808ドル
面積：720km²
(東京23区とほぼ同じ)



ローレンス・ウォン首相

ASEANと日本の比較

加盟国：10カ国（ベトナム、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ）

面積：449万km²（日本の約12倍、世界の3.2%）

人口：6.79億人（日本の5.4倍、世界の8.5%）

GDP：3兆6,223億米ドル（日本の85.6%、世界の3.6%）

1人当たりGDP：5,331米ドル

（日本の15.8%、世界の42.2%）

貿易額（輸出入計）：3兆8,284億米ドル

（日本の2.3倍、世界の7.7%）

ASEANの拡大と深化

- 1967年 **バンコク宣言**で設立（インドネシア・マレーシア・フィリピン・タイ・シンガポールの5カ国、**ASEAN5**）
- 1976年 第1回**ASEAN首脳会議**開催（バリ）、**東南アジア友好協力条約（TAC）**、**ASEAN協和宣言**、**ASEAN事務局設立協定**の採択
- 1984年 ブルネイ加盟
- 1992年 **ASEAN自由貿易地域（AFTA）**創設
- 1995年以降 ベトナム（1995年）、ラオス・ミャンマー（1997年）、カンボジア（1999年）が加盟（ASEANが10カ国に、**ASEAN10**）
- 2007年 **ASEAN憲章**調印、2008年発効
- 2011年 東ティモールが加盟申請（2022年に原則加盟・オブザーバー参加決定）
- 2012年 **RCEP**交渉立ち上げ、2020年署名、2022年発効
- 2015年 **ASEAN共同体**発足、**ASEAN共同体ビジョン2025**（10年先まで）採択
- 2017年 ASEAN設立50周年
- 2019年 **インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）**採択
- 2025年 **ASEAN共同体ビジョン2045**（20年先まで）採択予定

ASEANの重層的地域協力

1978年 ASEAN拡大外相会議 (ASEAN・PMC)

1994年 ASEAN地域フォーラム (ARF)

1997年 ASEAN+3首脳会議 (APT)

2005年 東アジア首脳会議 (EAS)

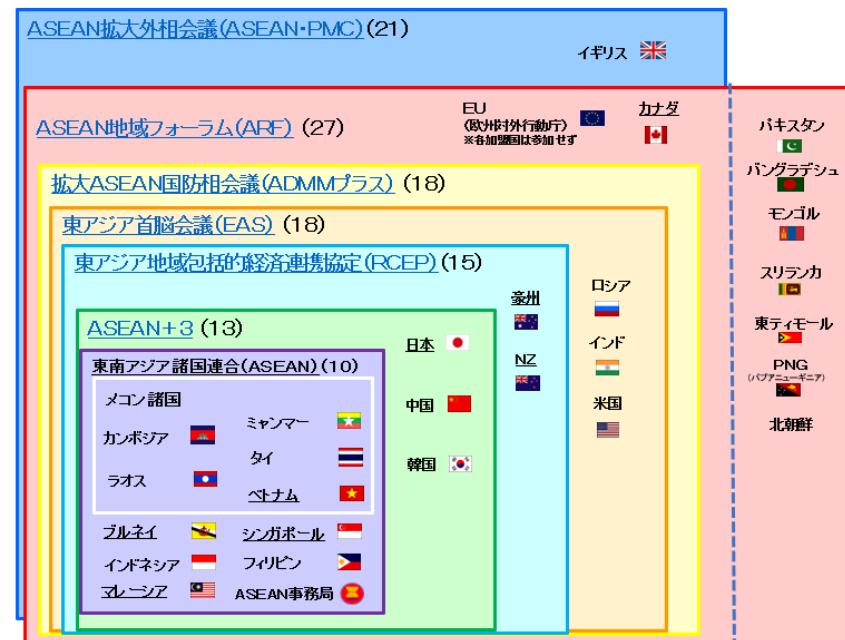
→2011年以降 米・露が参加

2010年 拡大ASEAN国防大臣会議
(ADMM+) 初開催

※ASEAN主導の枠組み

いずれもASEAN議長国で開催

※1989年からAPEC閣僚会議、1993年からAPEC首脳会議開催
(ASEANのうちカンボジア・ラオス・ミャンマーは未加盟)



注1: ①内は参加している国・地域・機関の数

注2: 下線は環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(TPP11)参加国(その他の参加国はメキシコ、ペルー、チリ)

ASEANのパートナー国・機関

	対話国 *包括的戦略パートナーシップ	分野別対話国	開発対話国
アジア	日本* (1977) 韓国* (1991/89) 中国* (1996/91) インド* (1995/92)		
北米	米国* (1977) カナダ (1977)		
オセアニア	豪州* (1974) NZ (1975)		
中南米		ブラジル (2022)	チリ (2019) ペルー (2024)
ヨーロッパ	EU (1977) ロシア (1996/91) 英国 (2021)	ノルウェー (2015) スイス (2016)	ドイツ (2016) イタリア (2020) フランス (2020) オランダ (2023)
中近東		トルコ (2017) UAE (2022)	
アフリカ		モロッコ (2023) 南アフリカ (2023)	

主な国際・地域機関

*大庭三枝『外交』2023年11・12月号所収論文の表をもとに紀谷作成

Community of Latin American and Caribbean States (CELAC)

Economic Cooperation Organization (ECO) Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA)

Eurasian Economic Union (EAEU) Gulf Cooperation Council (GCC)

Indian Ocean Rim Association (IORA) Pacific Alliance (PA)

Pacific Islands Forum (PIF) Shanghai Cooperation Organisation (SCO)

Southern Common Market (MERCOSUR) South Asian Association for Regional Cooperation (SAARC)

United Nations Organization for Economic Cooperation and Development (OECD)

ASEAN事務局の概要

- ✓ 1976年2月に開催されたASEAN外相会議を受けて設立。 **ジャカルタ (インドネシア)** に所在。
- ✓ 単年予算規模は、2000万米ドル。**10か国が均等割拠出。**
- ✓ 事務総長及び事務次長（4名）の下、職員数は約300名。



**カオ・キムホン
第15代事務総長**

任期：2023 – 2027年
カンボジア出身
(元外務国際協力省長官、前首相補佐特命大臣)

事務総長（閣僚級）

- ✓ 各国アルファベット順持ち回りにより輩出。 ASEAN首脳会議で任命。
- ✓ 任期は再任不可の5年間。
- ✓ 主な役割：
 - ASEANの合意・決定事項の進捗を促進・モニターし、 ASEAN首脳会議に年次報告書を提出。
 - ASEAN首脳会議、分野別閣僚級会合等に出席。
 - ASEANの見解表明や域外国との会議に出席

連結性課



アスタナ (Astanah Abdul)
政治安全保障共同体担当
任期：2024 – 2027年
マレーシア出身



シン (Satvinder Singh)
経済共同体担当
任期：2024 – 2027年
シンガポール出身



ルwin (San Lwin)
社会文化共同体担当
任期：2024 – 2027年
ミャンマー出身



ナラリヤ (Nararya Soeprapto)
共同体・官房担当
任期：2024 – 2027年
インドネシア出身

事務次長

政治安全保障局

対外関係局

ASEAN統合監視局

市場統合局

分野別開発局

ASCC分析監視局

人材開発局

持続可能開発局

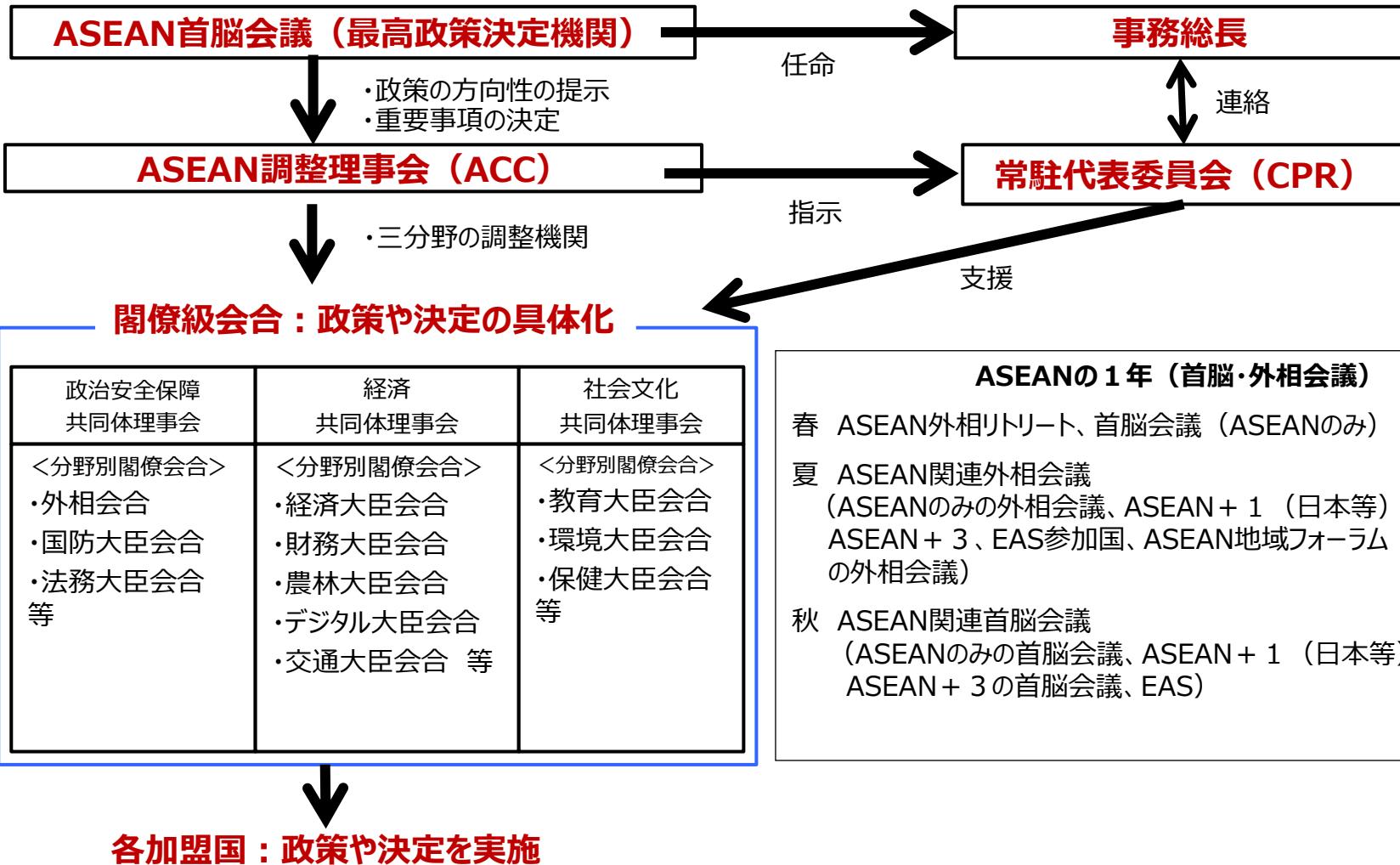
官房局

法律サービス・協定局

共同体局

ASEANの組織構造と意思決定プロセス

- ✓ 加盟国の首脳・閣僚等が集まる会議を定期的に開催し意思決定。議長国は各国持ち回り（首脳・外相等主要会議の議長国：2024年ラオス、2025年マレーシア、2026年フィリピン）。
- ✓ 意思決定の基本は、**協議とコンセンサス（ASEAN Way）**。EUのように国家主権の一部委譲、通貨統合、共通の外交・安全保障・防衛政策の実施を目指すものではない。



1. ASEAN情勢

- 2025年議長国マレーシアは、「包摂性と持続可能性 (Inclusivity and Sustainability)」をテーマとして掲げ、ASEAN中心性強化・ASEAN域内貿易投資・包摂性と持続可能性を優先事項として提示。
- ASEAN中心性・一体性を重視し、ASEAN共同体ビジョン2045と4つの戦略計画（政治安全保障・経済・社会文化・連結性）を5月のASEAN首脳会議で採択予定。
- ASEAN・GCC（湾岸協力会議）・中国首脳会議開催に向け議長国マレーシアが調整中。
- 今年20周年を迎える秋の東アジア首脳会議 (EAS)では、対話・協力強化のためマレーシア議長下で20周年記念宣言及びテーマ別声明を採択予定。
- ミャンマー：クーデターを受け合意した5つのコンセンサス（注）に沿った問題解決を図る。
(注) 暴力の即時停止、平和的解決に向けた建設的対話、議長特使による対話プロセスの仲介
A H Aセンターを通じた人道支援、特使による全ての関係者との面会
- 東ティモール：2022年にASEAN原則加盟。正式加盟に向けてASEAN事務局や域外対話国も支援。



マレーシア議長国ロゴ

2. 日ASEAN関係

- 2023年12月、日ASEAN友好協力50周年特別首脳会議（於東京）で共同ビジョン・ステートメント（「信頼のパートナー」）及び130項目44分野からなる実施計画を採択。第1回アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）首脳会合も開催。
- 2024年10月、石破総理は初外遊としてラオスでのASEAN関連首脳会議に出席。第2回AZEC首脳会合も開催。
- 2025年1月、石破総理は議長国マレーシア及びインドネシアを訪問。AOIP（注）の実現を通じ世界を協調に導くべく連携。
(注) インド太平洋に関するASEANアントラック
- 大阪万博：「架け橋を築く (Building Bridges)」をテーマに ASEANの国際社会への貢献を紹介するASEANパビリオンを出展。



2024年10月 日ASEAN首脳会議@ラオス

ASEANと日本

日本にとってのASEANの重要性

・戦略的要衝

海洋国家の日本にとって戦略的に重要なシーレーンの要衝。
自由で開かれたインド太平洋（FOIP）実現の要。

（ASEANは、インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）を2019年に発表。）

・成長する経済

日本企業の製造拠点。約6.8億人の人口を抱える成長する消費市場としても有望（世界の成長センター）。

エネルギー・脱炭素、デジタル等の新課題への挑戦の場。

・重層的な地域協力の中心

ASEAN主導の地域協力枠組みが重層的に発展。
首脳会合や分野別大臣会合が定期化・制度化。

日ASEAN関係史

- 1973年 **合成ゴムフォーラム**設置、日ASEAN関係開始
- 1977年 初の**日ASEAN首脳会議**開催（クアラルンプール）、**福田ドクトリン**表明（マニラ）
- 1978年 初の**日ASEAN外相会議**開催
- 1981年 日本アセアンセンター設立
- 1990年 **カンボジアに関する東京会議**開催（1992年PKO派遣、カンボジア復興閣僚会議開催）
- 1997年 **アジア金融危機**対応（ASEAN + 3首脳会議開催、1998年新宮沢構想、2000年チェンマイイニシアティブ（CMI）、2010年マルチ化（CMIM））
- 2003年 日ASEAN30周年特別首脳会議開催
- 2004年 日本が東南アジア友好協力条約（TAC）に加盟、
スマトラ沖大地震・インド洋津波被害対応（人道復興支援）
- 2006年 日ASEAN統合基金（JAIF）設置（2013年にJAIF2.0、2023年にJAIF3.0表明）
- 2008年 日ASEAN包括的経済連携協定（AJCEP）発効、
東アジアASEAN経済研究センター（ERIA）設立
- 2011年 ASEAN日本政府代表部開設、ASEAN防災人道支援調整（AHA）センター、
ASEAN + 3マクロ経済リサーチオフィス（AMRO）設立
- 2013年 日ASEAN40周年特別首脳会議開催
- 2020年 **AOIP協力についての日ASEAN首脳共同声明**採択、
ASEAN感染症対策センター（ACPHEED）設立への全面的支援表明
- 2023年 **日ASEAN50周年特別首脳会議**開催

反日デモ：マラリ（1月15日の災難）事件

1974年1月15日、田中角栄首相（当時）が来尼した際、ジャカルタで反日暴動が発生。対日赤字の増大による国民の生活苦や、スハルト政権下での日系企業のビジネス拡大に対して学生運動家らが中心となり、大規模なデモを起こした。

1万人のデモ隊が暴徒化し、日本大使館の国旗が引きずり降ろされ、死者11名、重傷者17名、燃やされ破壊された車両807台・バイク187台、損傷建築物114棟、逮捕者770名の犠牲・損害があった。



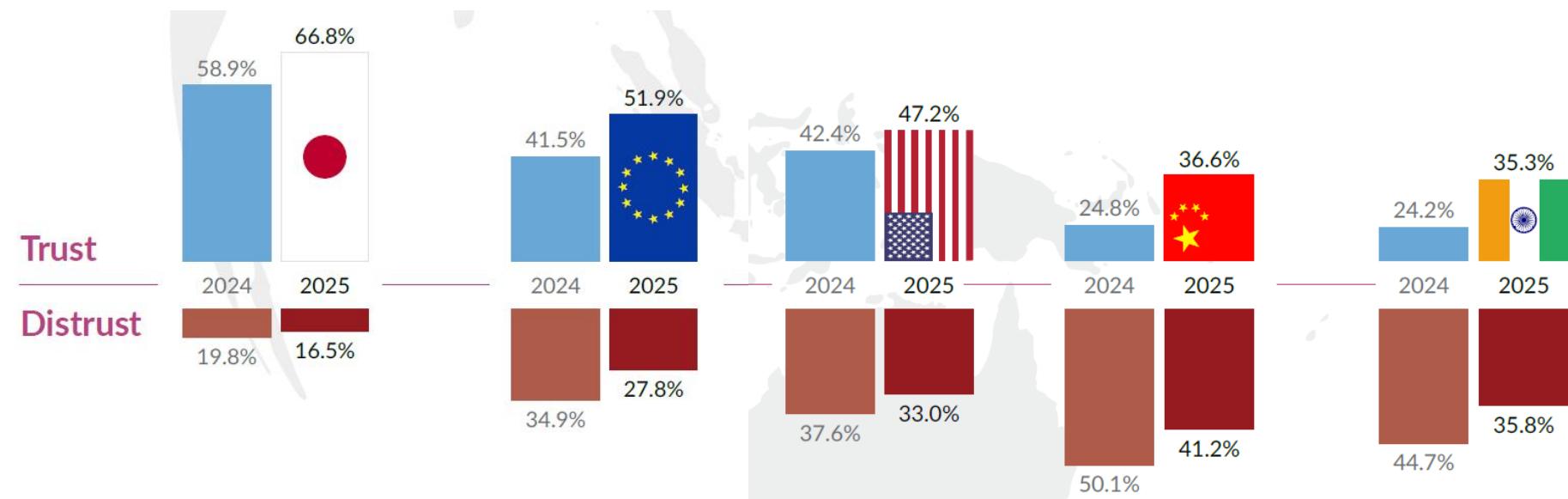
ASEAN意識調査「東南アジアの現状2025年」

日本の信頼度が主要国中第1位！

シンガポールのシンクタンクISEASユソフ・イシャク研究所ASEAN研究センターが2019年から毎年実施するASEAN 10カ国（今年度から東ティモールも追加）の研究者、ビジネス関係者、市民社会・メディア関係者、各区政府・国際機関関係者約2千人を対象に実施された意識調査。

日本は、信頼 (Trust) が不信 (Distrust) を大きく上回って**主要国中第1位**。

日本の国際法を尊重し遵守する責任ある姿勢が高く評価された。



(参考) 福田ドクトリン

第一に、わが国は、平和に徹し軍事大国にならないことを決意しており、そのような立場から、東南アジアひいては世界の平和と繁栄に貢献する。

第二に、わが国は、東南アジアの国々との間に、政治、経済のみならず社会、文化等、広範な分野において、眞の友人として心と心のふれ合う相互信頼関係を築き上げる。

第三に、わが国は、「対等な協力者」の立場に立って、ASEAN及びその加盟国の連帯と強靭性強化の自主的努力に対し、志を同じくする他の域外諸国とともに積極的に協力し、また、インドシナ諸国との間には相互理解に基づく関係の醸成をはかり、もって東南アジア全域にわたる平和と繁栄の構築に寄与する。



福田総理のマニラ演説（1977年8月18日）（出典：内閣広報室）

日ASEAN関係史

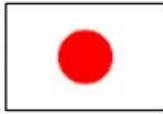
写真で振り返る日ASEAN50年の歴史



1967



1973



1977



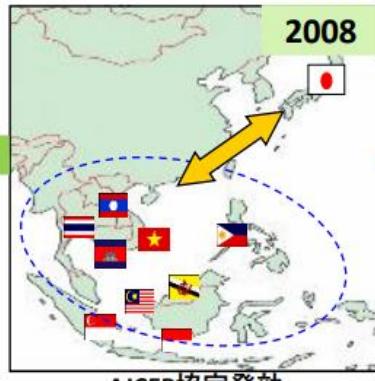
1981

バンコク宣言によるASEAN設立

日ASEANの対話開始（合成ゴムフォーラム）

「福田ドクトリン」の表明

日本アセアンセンター設立



2008



JENESYS事業開始



2006



2003

日ASEAN特別首脳会議（30周年）
「東京宣言」

AJCEP協定発効



2011

ASEAN日本政府代表部開設



2013

日ASEAN特別首脳会議（40周年）
日ASEAN友好協力ビジョンステートメント・実施計画



2020

AOIP協力についての
日ASEAN首脳共同声明



2023

日ASEAN特別首脳会議
(50周年)

1. 特別首脳会議（2023年12月17日、東京）

●日ASEAN友好協力に関する共同ビジョン・ステートメントの採択

—副題：信頼のパートナー（Trusted Partners）

（インド太平洋に関するASEANアウトルックと、日本の自由で開かれたインド太平洋構想とが本質的原則を共有することを認識。すべての人間が生れながらにして自由であり、尊厳と権利について平等であることを確認。）

我々のビジョンは、共有された価値や原則が確保され、全ての国が平和及び繁栄を追求でき、民主主義、法の支配、良い統治並びに人権及び基本的自由の尊重の原則が守られる世界を目指すこと。我々は、相互信頼に基づき、ASEAN一体性と中心性を支持しつつ、次の3つの柱の下で、互恵的な包括的戦略的パートナーシップを強化する。

①世代を超えた心と心のパートナー

日ASEANパートナーシップの基盤である、相互信頼、相互理解、相互尊重の「心と心」の関係をさらに育むことにコミット。
若者や人的交流、知的交流の強化。

②未来の経済・社会を共創するパートナー

多様、包摂的、強靭、自由、公正、豊かで持続可能な経済社会を共創。
共通の経済的・社会的課題に共同で取り組む。
質の高いインフラによる連結性やサプライチェーン強靭性・産業競争力の強化、持続可能なエネルギー安全保障・エネルギー移行の促進。

③平和と安定のためのパートナー

自由で開かれたインド太平洋の促進、安全保障協力の強化、核なき世界に向けた核軍縮・不拡散、法の支配等の促進、WPS等の促進。



●岸田総理から、「信頼」に基づく「共創」により目指す「平和と繁栄」のためのアクションを発表（次頁）

「信頼」に基づく「共創」により目指す「平和と繁栄」のためのアクション (日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議において岸田総理から発表)

①世代を超えた心と心のパートナー： 日ASEAN双方が裨益する交流を通じ、相互理解をより一層醸成し、「心と心の繋がり」を次の世代に繋げる

- 次世代共創パートナーシップ – 文化のWA2.0 –
- 國際共同研究や人材交流・育成等を通じた持続可能な研究者ネットワークの強化
- 若手ビジネスリーダーのネットワーク作り、ASEAN事務局職員の奨学プログラム等

②未来の経済・社会を共創するパートナー： 互いの強みを持ち寄り、山積する課題への解決策を見出し、日ASEAN双方の活力が相互環流することでより強靭な経済・社会を目指す

- 共創による課題解決のための官民連携の新たな取組
 - アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）構想
 - 日ASEAN次世代自動車産業共創イニシアティブ
 - 連結性強化、気候変動対策、中小零細企業・スタートアップ支援等のための民間投資の後押し

③平和と安定のためのパートナー： 日ASEAN双方の人々が共に暮らす地域の平和と繁栄に貢献し、全ての人が繁栄を享受し、「人間の尊厳」が守られる世界を共に創る

- 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化ための取組
 - サイバーセキュリティ人材育成、ASEAN防災人道支援調整センターを通じた人道支援等

日ASEAN協力の推進（主要協力分野）

2025（令和7年）5月
ASEAN日本政府代表部

世代を超えた心と心のパートナー

- ◆ 青年・人的交流
- ◆ 文化・知的交流
- ◆ スポーツ
- ◆ 観光
- ◆ 語学
- ◆ 教育
- ◆ 外国人労働者
- ◆ 科学技術
- ◆ 人材開発
- ◆ ビジネス交流
- ◆ 自治体交流
- ◆ ASEAN事務局支援
- ◆ 大阪・関西万博

未来の経済・社会を共創するパートナー

- 経済
- 金融
- 連結性
- 交通
- 環境・気候変動
- エネルギー・重要鉱物
- 防災
- 保健・社会福祉
- スマートシティ・都市化
- デジタル
- 宇宙
- 農業・食料システム
- 格差是正
- ジェンダー
- 労働
- SDGs
- 公務員制度
- 地方開発

平和と安全のためのパートナー

- 法の支配
- 海洋安全保障
- 防衛
- WPS・YPS・平和構築
- 核不拡散
- 人権
- 国境を越える犯罪
- サイバーセキュリティ
- 偽情報
- 競争政策・競争法
- 出入国管理
- 地雷
- 地域枠組み

防衛協力強化のための日ASEAN大臣イニシアティヴ：ジャスミン Japan-ASEAN Ministerial Initiative for Enhanced Defense Cooperation: JASMINE

【概要】

- 安全保障環境が厳しさと複雑さを増し、共有しているインド太平洋地域の将来像の実現が試練の時を迎えており、日ASEANの防衛協力関係を新たな段階へと進めるため、2023（令和5）年11月15日、第8回日ASEAN防衛担当大臣会合において、木原防衛大臣がASEAN各国に提示したイニシアティヴ。
- ASEANへの防衛協力の方向性に関する全体像を示した「ビエンチャン・ビジョン2.0」の精神に則り、日本がASEANと共有しているインド太平洋地域の将来像を実現すべく、共に進めたい具体的な防衛協力の内容を4つの柱の下で示したもの。

- ✓ **共有しているインド太平洋地域の将来像**：日本とASEANは「自由で開かれたルールに基づくインド太平洋地域を促進するとの共通の考え方」を確認している。日本の「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」及びASEANが掲げる「インド太平洋に関するASEANアウトロック（AOIP）」は、地域の平和、安定及び繁栄を促進する上で本質的な原則を共有している。
- ✓ **4つの柱**：(1) 日ASEANで力や威圧によるいかなる一方的な現状変更も許容しない安全保障環境の創出
(2) 日ASEAN防衛協力の継続と拡充
(3) 日ASEAN防衛関係者の更なる友情と機会の追求
(4) ASEAN・日本・太平洋島嶼国の連携の支持

【「ビエンチャン・ビジョン2.0」との関係性】

- 「ジャスミン」は、「ビエンチャン・ビジョン2.0」の精神に則り、日本がASEANと共有するインド太平洋地域の将来像を実現すべく、日本がASEANと共に進めたい具体的な防衛協力の内容を4つの柱の下で示したもの。
- 「ビエンチャン・ビジョン2.0」はASEANへの防衛協力の方向性に関する全体像を示したもの。「ビエンチャン・ビジョン2.0」そして同ビジョンに掲げられた「心と心の協力」、「きめ細やかで息の長い協力」、「対等で開かれた協力」といった実施三原則や、ASEANの強靭性を支援することによるASEANの中心性と一体性への貢献といった協力の基本的な方向性は引き続き有効。

ジャスミンの下での主要な協力（1）

第一の柱：日ASEANで力や威圧によるいかなる一方的な現状変更も許容しない安全保障環境の創出

第二の柱：日ASEAN防衛協力の継続と拡充

- ・ 日ASEAN及び東ティモール乗艦協力プログラム（2024年6月）
- ・ プロフェッショナル・エアマンシップ・プログラム（PAP）（2024年7月）
- ・ 日ASEANサイバーセキュリティ協力プログラム（2023年11月・2024年7月）



ジャスミンの下での主要な協力（3）

第四の柱：ASEAN・日本・太平洋島嶼国の連携の支持

・ 海洋協力及び連結性会議

- ✓ 共通の課題への対応に向けた対話を実施
- ✓ 2024年12月にインドネシアと共に（於：ジャカルタ）
- ✓ 33の国・機関から参加



ジャスミンの下での主要な協力（2）

第三の柱：日ASEAN防衛関係者の更なる友情と機会の追求

- ・ 日ASEAN女性・平和・安全保障（WPS）協力プログラム
 - ✓ 2024年10月に日本にて初開催



ジャスミンの下での主要な協力（4）

- ・ 中谷防衛大臣によるラオスでのADMMプラス（2024年）への参加
- ・ フィリピンとの海洋安全保障専門家会合（海洋安保WG）共同議長



日ASEAN防衛当局次官級会合について

概要

日ASEAN防衛当局次官級会合は、**ASEAN各国の防衛当局及びASEAN事務局の次官級等を我が国に招き**、地域の安全保障上の課題について率直な対話をを行い、緊密な人的関係の構築を通じて**多国間・二国間の関係強化を図ること**を目的として、2009年から開催。（2020年～2022年はコロナのため延期）



直近の日ASEAN防衛当局次官級会合（第14回会合）

【日時・場所】 2025年2月11日 場所：福岡

【参加者】 ASEAN各国の防衛当局及びASEAN事務局の次官級等

※ ミャンマー情勢を踏まえ、本会合にミャンマーは招待せず。ASEAN加盟が原則合意されている東ティモールもオブザーバー参加。

【議長】 加野防衛審議官 ※2014年以降、防衛審議官が議長を務めている。

主な成果

- 厳しい挑戦を受ける安全保障環境の中で、地域の安全保障協力をリードするASEANの役割がますます重要になっていることを強調。
- 加えて、「防衛協力強化のための日ASEAN大臣イニシアティヴ：ジャスミン」は我が国が目指す「自由で開かれたインド太平洋」と「インド太平洋に関するASEANアウトルック」という、本質的原則を共有するビジョンの実現を力強く後押しするものであることを強調。
- その上で、我が国からは、「ジャスミン」に基づく具体的取組について振り返り、ASEANとの新たな防衛協力の可能性について発表。
- ASEAN各国とASEAN事務局からは、地域の平和と安定に向けた今後の日ASEAN防衛協力について発表され、建設的な意見交換が行われた。
- 今般の議論を踏まえ、我が国とASEAN諸国が引き続き「ジャスミン」の4つの柱を基に協力し、共に地域の平和と安定に一層貢献していくことで一致。

ASEANとインド太平洋

インド太平洋に関するASEANアウトルック (AOIP)

2019 ASEAN首脳会議（バンコク）でAOIP採択

目的

- （1）地域における協力のガイダンスの提供。
- （2）地域の平和、安定、繁栄の実現を促進し、より緊密な経済的な協力を促進することによる信頼の強化。
- （3）既存のASEAN主導のメカニズムの強化。
- （4）ASEANの優先協力分野の実施・探求
⇒海洋協力、連結性、SDGs、経済等の分野

原則

ASEAN中心性の強化、開放性、透明性、包摂性、ルールに基づく枠組み、グッドガバナンス、主権の尊重、不介入、既存の協力枠組みとの補完性、平等、相互尊重、相互信頼、相互利益、国連憲章その他の関連する国連条約等を含む国際法の尊重

2020～日本を皮切りに対話国が次々とAOIP支持の共同表明採択

2022 AOIP優先協力4分野の主流化に関する共同首脳声明採択

2023 EAS首脳声明でAOIPの主流化支持

2024 未来志向のASEANとASEAN中心の地域枠組みのためのAOIP首脳声明採択

- ASEAN及びASEAN主導枠組みでの包摂的・包括的協力の重要性の確認
- AOIPの推進・実施・主流化の継続
- 戦略的信頼関係と互恵的協力関係を構築するための戦略対話の推進

東アジア首脳会議 (EAS)で議論されている 主な地域・国際情勢

- 北朝鮮情勢
- 南シナ海情勢
- ミャンマー情勢
- ウクライナ情勢
- 中東情勢



- 石破総理就任後、**初めての二国間訪問**として、本年のASEAN議長国マレーシア及びASEAN最大の経済・人口を誇るインドネシア訪問。
- 國際情勢が不透明さを増す中、インド太平洋地域の「要」に位置し、世界の成長センターである**東南アジアとの連携・信頼関係強化**は、今後の日本外交にとり極めて重要。
- アンワル・マレーシア首相、プラボウォ・インドネシア大統領と個人的関係構築。

1 日・マレーシア首脳会談 (1月10日:約90分間(少人数:25分、拡大会合:65分))

(1)安全保障

- 戰略的対話の進展及び**海軍種間の共同訓練開始**を歓迎。
- **OSA**(政府安全保障能力強化支援)による**警戒監視用機材の供与**の着実な進展を確認。
- 海上保安庁とマレーシア海上法執行庁間の**協力文書実質合意**を歓迎。



歓迎式典

(2)経済

- **サプライチェーン強靭化**や、**リアース開発**分野での協力で一致。
- **二酸化炭素回収・貯留(CCS)**や**アンモニア発電**、**サラワク州のものを始めとする水素、LNG**等の協力といったエネルギー安全保障の確保及び多様な道筋による脱炭素化に向けた協力の推進を確認。
- **アジア・ゼロエミッション共同体(AZEC)**に係る協力を一層強化することで一致。
- 日本の強みを活かし、マレーシアの洪水対策を支援。



少人数会合

(3)地域・国際情勢

- 東シナ・南シナ海情勢、中東情勢、ミャンマー情勢を始めとする地域・国際情勢について意見交換。**パレスチナ**向け**協力を含む連携**を推進することで一致。
- 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化につき、引き続き連携していくことで一致。



全体会合

2 日・インドネシア首脳会談（1月11日：約110分間（少人数：50分、拡大会合：60分））

（1）安全保障

- 年内の外務・防衛閣僚会合「2+2」開催で一致。防衛装備品・技術協力を含む海洋安保について防衛実務者間の協議立ち上げを歓迎。
- OSAによる高速警備艇の供与の交換公文署名を歓迎。
- 防衛大学校への留学生受入れ等を通じた人的ネットワーク形成の重要性を確認。



歓迎式典

（2）経済・防災等

- エネルギーの安定供給に関する協力強化で一致。AZECの下でのムアララボ地熱発電、水素、アンモニア、バイオ燃料といった脱炭素・エネルギー分野や重要鉱物分野での協力を確認。
- 防災分野について、両国が災害多発国であること念頭に、日本の知見を活かし、インドネシアの国土強靭化を支援。
- プラボウォ大統領が進める給食の普及、漁業・農業振興、人材育成について、日本の経験を踏まえた協力の推進で一致。



首脳会談前の握手

（3）地域・国際情勢

- 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化につき、引き続き連携していくことで一致。
- インドネシアのOECD加盟プロセスの進展を積極的に支援することを含め、国際場裡において一層連携を強化することで一致。



少人数会合

（4）その他

- 石破総理から、プラボウォ大統領を本年中に訪日招待する考えを伝達。

- 1月のマレーシア・インドネシア訪問及びラオス首相訪日に続く、東南アジア諸国との首脳外交。戦略的要衝に位置し、力強く経済成長を続ける両国との間で、安全保障や経済分野で連携強化。
- 米国の関税措置や中国の報復措置が世界経済や多角的貿易体制に与える影響を踏まえ、両国及び現地日本企業の声にも耳を傾けた。
- 力による一方的な現状変更の試みが強化される中で、法の支配に基づく「自由で開かれたインド太平洋」実現に向け、鍵となる東南アジア諸国との安全保障協力を強化。

1 ベトナム：ラム党書記長との会談(約70分)及びチン首相との会談(少人数含め計約110分)

(1) 安全保障

- 外務・防衛次官級2+2の創設。安全保障協力を更に具体化することで一致。

(2) 経済

- 「新しい時代」を歓迎し、半導体やGXを始めとする新たな分野の協力等を通じてベトナムの産業高度化・強靭化を後押しすることを確認。

- ✓ ベトナムの半導体博士500人育成目標に対して250人程度を受入れ
- ✓ 日越大学の半導体プログラムの今夏開始
- ✓ AZEC等を通じた総額200億ドル規模の脱炭素・エネルギー協力
- ✓ 地方農村地域の防災インフラ整備

- 日本企業が抱える諸問題解決を含め投資・経済協力環境整備を確認。

(3) 地域・国際情勢

- 世界経済、東シナ・南シナ海情勢、核・ミサイル問題及び拉致問題を含む北朝鮮情勢、ミャンマー情勢を始めとする地域・国際情勢について意見交換し、連携強化で一致。

- 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序及び多角的自由貿易体制の維持・強化に向け協力していくことで一致。ベトナム側は日本の役割に期待。



トーラム党書記長



チン首相による歓迎式典



高付加価値産業
日越協力フォーラム
(チン首相参加)

2 マルコス大統領との会談(少人数含め計約85分)

(1) 安全保障

- 運用面での更なる連携強化に向けたACSAの交渉開始で一致。
- 情報保護協定の早期締結の重要性を確認し、政府間の議論実施で一致。
- 日米比海上保安機関間での新たな合同訓練

(2) 経済

- 日本の強みや経験を活かして、マルコス大統領が目指すフィリピンの上位中所得国入りを後押し。
 - 海底ケーブル事業やオープンRAN実証実験を通じた5Gネットワーク構築。
 - フィリピン国内のLNG設備拡大に向け、官民で連携。AZECや強靭なエネルギーサプライチェーン構築に向けた協力。ニッケル等の鉱物資源事業を含む事業のため、安定した事業環境が必要であるとの認識で一致。
 - 防災や農業分野での緊密連携

(3) 地域・国際情勢

- 世界経済、東シナ・南シナ海情勢、その他の地域・国際情勢について意見交換し、連携強化で一致。



日・フィリピン首脳会談



マルコス大統領夫妻との
記念撮影

3 フィリピンにおけるその他の行事

- 4月29日、総理はフィリピン残留日系人と面会。総理から、一日も早く国籍取得や一時帰国が実現するよう、日本政府として取り組んでいきたい旨発言。フィリピン残留日系人の方々からは、石破総理と面会できたことで、祖国とのつながりを感じた旨感謝の気持ちが述べられた。

- 4月30日、日本の総理として初めてカリラヤ日本人戦没者慰霊碑にて献花。また、フィリピン沿岸警備隊視察や海自艦艇への激励を実施。



残留日系人との面会

信頼で共創する未来

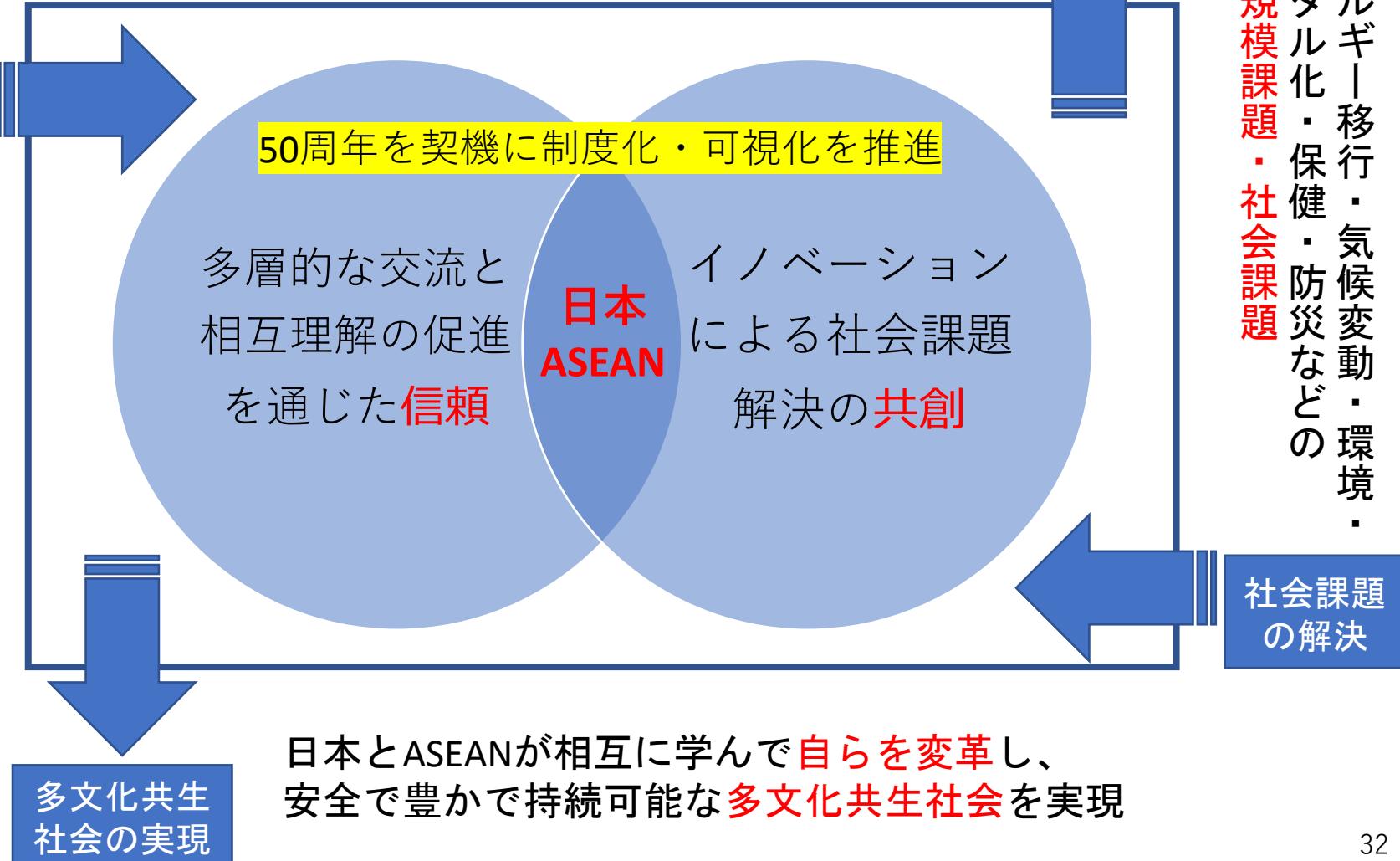
AOIPというプラットフォームを活用して、協力の成果をインド太平洋から世界に広め、地域と世界の持続可能な平和と繁栄に貢献

世界にスケールアップ

エネルギー移行・気候変動・環境・
デジタル化・保健・防災などの
地球規模課題・社会課題

50年の歴史

福田ドクトリン以来の
「心と心のふれ合う相互信頼関係」



私たちはこれから何をすべきか

「今、ここ、自分」から、 持続可能な平和で繁栄する未来を共創する

(1) 「継続」と「変革」の相乗効果

- ASEANとの交流・協力の蓄積と継続が「信頼」を生む
- 諸課題の解決に向けた革新的な共創が「価値」を生む
- 両者の相乗効果で広がりとインパクトが得られる

(2) 「ビジョン」と「担い手」の役割

- 諸課題に直面する成長センターのASEANが、課題解決先進国で技術と経験を持つ日本とともに (with Japan) 、解決策を共創して地域と世界に広げる (local solutions to global issues) とのビジョンが重要
- そのようなビジョンを信じてやり切る日ASEAN双方の担い手が、出会って協力することで、初めて世の中に現実化

(3) 「目に見える行動」の拡大

- 具体的な行動を分野毎に整理して見える化し、プラットフォームを構築してネットワークを広げることで、成果を地域と世界に展開

ご清聴ありがとうございました

